

討論メモ

「大久保利通に学ぶ」

令和 3 年 9 月 21 日

1. 9月は、表題について大平忠さんに解説していただきました。近代国家の建設に大変な貢献をされた、大久保利通の知名度も好感度も低いことに義憤を感じられて、長年にわたって研究を重ねられた末の“大久保利通像“を、下記の項目に沿って、語っていただきました。

2.

人格の形成

権力への執着

中央集権国家に相応しい強い政府の樹立

近代化を目指す新政府の概要

天皇制と宮中のあり方

米欧視察

西郷との対決

殖産興業

行政改革

大久保の無念

大久保の真骨頂

西欧列強の歯牙に対抗し自立した独立国家を築くという不動の軸を持ちながら、状況に応じて構想や政略を変え、組む相手さえも変えながら、漸進を続ける人だったとのこと説明がありました。

3. 続いて出席者 8 名による意見交換に移り、下記のような意見が出されました。

・小学生を対象にした“日本の歴史上の人物”知名度アンケート調査によると、一位から三位はヒミコ、ザビエル、ペリーの順で、大久保を始めとして幕末の志士の知名度は低い。

・上位は架空の人物や外人ばかりだ。日本の歴史教育は歪んでいる。

・明治維新の犠牲者は西南戦争を含めても三万人程度だが、フランス革命は百万人といわれる。明治維新は革命といわれるほど過激なものだったのか。

・欧米の進出に対して、日本は過敏に反応したのか。

- ・清の都は内陸の北京で、危機感が薄かったのではないか。
- ・原因は西欧の侵略だったが、近代国家に生まれ変わったのは事実だ。
- ・国内に変革の生まれるマグマはあったのだろうか。
- ・江戸時代中期から安定が続き、戦争がなくて武士は出世の機会を失っていた。特に、下級武士に不満がたまっていた。

- ・国立教育研究所のアンケート調査では、明治維新を知らない人が増えている。
- ・マルクス主義者の労農派は明治維新を絶対主義の確立ととらえている。

また、講座派はブルジョワ革命ととらえていた。

- ・日本の歴史学は歪んでいる。日本の将来に重要な人物が知名度上位に来る教育をすべきだ。
- ・日米戦を知らない若者が増えている。

- ・大久保が暗殺されていなければ、日本の歴史は変わっていただろうか。
- ・伊藤、大隈、山縣たちが大久保の志を引き継いだ。あまり変わらなかったのではないか。
- ・大久保は臨機応変の人だったが、あらゆる人の話に耳を傾け、取り立てるのを躊躇しなかった。

・明治の初頭の混乱期に、新政府の半分以上の重要人物が大挙して、しかも長期間、米欧の視察に出かけたのは凄い。ここで、近代国家とは何かを学んだ。

- ・日本は中進国との情報が入っていて、海外から学ぼうという意欲が強かった。
- ・この視察で、欧米からの遅れは40-50年と認識し、30年で追いつこうとした。

- ・近年は若者が海外に出たがらない傾向がある。
- ・日本の留学生は金持ちが多い。
- ・かつて米国に駐在していた経験からすると、私費の留学生は質が悪かったし、中国韓国より劣っていた。

しかし、公費の留学生は極めて優秀だった。

以上